

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

鳥羽市

平成 28 年 10 月

本年 4 月に小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、9 月 29 日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本市（町）における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における下記の「5 調査結果の取扱い」の「（5）調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。

（5）調査結果の取扱い

文部科学省は、以下のとおり、調査結果を示し、公表するとともに、各教育委員会、学校に対して、調査結果等を提供する。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 21 条第 17 号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当てることとする。

1 教科に関する調査の結果・分析

(1) 鳥羽市における特徴的な傾向

<小学校国語A>

○強み

- ・問題5：平均正答率 93.3%（三重県 92.7%、全国 93.1%）
- ・問題6：平均正答率 64.2%（三重県 63.3%、全国 63.9%）
文章を読み、叙述を基に必要な情報を選択することができます。

○弱み

- ・問題1 二 2：平均正答率 65.7%（三重県 71.5%、全国 73.8%）
- ・問題1 二 3：平均正答率 56.3%（三重県 61.7%、全国 64.2%）
言語活動の充実を行ううえでも、基礎的な漢字の読み書きを正確に行う必要があります。
- ・問題4：平均正答率 72.4%（三重県 77.1%、全国 78.2%）
文章を書くために目的や意図に応じて書く事柄を整理する経験が必要です。

■全体の傾向から見られる課題

- 「話す・聞く」「書く」「読む」「言語についての知識・理解・技能」の分野において基本的な力を付けています。ただ、「ローマ字を書く」について3問の平均が44.5%となっています。外国語の学習に関わるだけでなく、キーボード入力等でも必要な力となります。

<小学校国語B>

○強み

- ・問題2 二（2）：平均正答率 69.4%（三重県 65.6%、全国 64.2%）
条件に沿って自分の考えたことを書くことができます。
- ・問題2 一：平均正答率 53.0%（三重県 44.2%、全国 43.4%）
グラフから捉えたことやわかったことを的確に書くことができます。

○弱み

- ・問題1 一：平均正答率 37.3%（三重県 48.9%、全国 51.8%）
- ・問題1 二：平均正答率 45.5%（三重県 49.6%、全国 51.1%）
目的に応じて質問したり、相手の質問の意図を捉えたりする経験が必要です。
- ・問題2 三：平均正答率 53.0%（三重県 58.2%、全国 58.3%）
適切な資料を選び取った根拠について説明することに苦手さがあります。

■全体の傾向から見られる課題

- 目的や意図に応じて、適切な資料を選ぶことや叙述から文章・言葉を選ぶことと課題が見られます。
- 生活場面や他教科でも活用されるインタビューや受け答えについて、実践場面での経験が必要です。

＜小学校算数Ａ＞

○強み

- ・問題５：平均正答率 85.1％（三重県 83.9％、全国 82.0％）
- ・問題７：平均正答率 80.6％（三重県 78.3％、全国 78.0％）
三角形や直方体などの図形に関する知識を習得できています。

○弱み

- ・問題１（２）：平均正答率 62.7％（三重県 68.1％、全国 68.5％）
問題２（３）：平均正答率 74.6％（三重県 77.5％、全国 77.7％）
小数の仕組みを理解することや計算することに課題が見られます。
- ・問題６：平均正答率 70.9％（三重県 79.8％、全国 79.6％）
知識を活用して、図形の問題を解いていく技能に課題が見られます。
- ・問題９（２）：平均正答率 50.0％（三重県 53.3％、全国 50.9％）
１をこえる百分率、割合の理解について課題が見られます。

■全体の傾向から見られる課題

- 無回答率が全体を通して低く、問題に取り組む姿勢が育っていますが、問題の意図を十分に理解せずに取り組んでいる解答が見られます。小数が関わる計算に苦手さが見られます。

＜小学校算数Ｂ＞

○強み

- ・問題５：平均正答率 95.5％（三重県 92.8％、全国 92.6％）
- ・問題４（２）：平均正答率 73.1％（三重県 70.0％、全国 70.7％）
無回答率やそれぞれ 0.0％、0.7％であり、できる問題にきちんと取り組んでいます。

○弱み

- ・問題２（３）：平均正答率 8.2％（三重県 14.7％、全国 15.6％）
- ・問題５（１）：平均正答率 3.7％（三重県 6.1％、全国 6.9％）
示された式の中の数値の意味を、他の数値や演算、図などと関連づけて考え記述したり説明したりするという経験が必要と考えます。

■全体の傾向から見られる課題

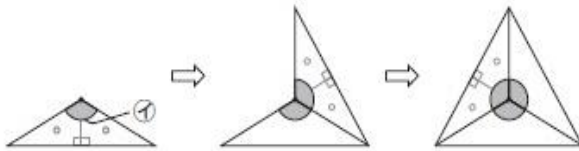
- 数値が表していることや式・図が示すことを関連づけて考えることを意識して行うことが必要です。普段から式や数値について、その意図や意味を記述したり、説明したりする経験を重ねていく必要があります。
- この資料、グラフは「どんなことを示すためのグラフなのか。」をしっかりと考え、示すことを常に意識させていくことが必要です。

小学校算数B 問題5

(1) 次に、下のように、②の二等辺三角形を選んで形をつくります。



①の角が1つの点のまわりに集まるように、②の二等辺三角形を並べていくと、3つで、正三角形ができました。



どうして3つでぴったりつくることができるのでしょうか。



$360 \div 120 = 3$ で、商が3になり、わり切れるからです。



そうですね。
では、 $360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

$360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。

言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

1	◎	3. 7
2	1, 3 を書く	3. 0
3	2, 3 を書く	1. 5
4	3 を書く	3. 7
5	1, 2 を書く	2 0. 1
6	1 のみ	1 2. 7
7	2 のみ	1 7. 9
8		0
9	上記以外	1 4. 2
0	無回答	2 3. 1

正答例

◎360 は一回転した角の大きさを表しています。【1】

120 はイの角の大きさを表しています。【2】

$360 \div 120$ は 360 度の角の中に
120 度の角がいくつ入るかを
計算している式です。【3】

- ・条件をすべて満たしていない誤答が多いです。授業において、数値が何を表すのかをはっきりと示して考えたことを説明する機会を増やしていきたいと考えます。
- ・文章題に線を引く習慣を付けていきたいです。わかっていることに傍線、求めることに波線を日頃から自力で引かせることが必要です。

＜中学校国語Ａ＞

○強み

- ・問題 9 五：平均正答率 53.4％（三重県 49.3％、全国 50.8％）
- ・問題 9 七二：平均正答率 96.0％（三重県 95.0％、全国 94.9％）

漢字や語句の意味の理解など伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について、必要な力を身につけています。

○弱み

- ・問題 3 二：平均正答率 86.4％（三重県 89.5％、全国 90.0％）
- ・問題 6 二：平均正答率 53.4％（三重県 64.6％、全国 67.3％）
- ・問題 8 二：平均正答率 52.8％（三重県 60.8％、全国 62.4％）

書かれている言葉や行動について検討したり、比較したりすることで、目的に合ったものを選びとる経験が必要です。

■全体の傾向から見られる課題

- パンフレットや本の奥付等、様々な情報を持つ資料に触れる機会を増やすことや、相手や目的を意識して効果的に活用する場を設定していくことが必要です。

＜中学校国語Ｂ＞

○強み

- ・問題 2 三：平均正答率 51.1％（三重県 46.6％、全国 49.2％）
- ・問題 3 三：平均正答率 58.5％（三重県 55.7％、全国 57.7％）

書く能力、記述式の問題で平均正答率に近い値が出ており、自分の考えや方法を書く力が付いてきていると言えます。

○弱み

- ・問題 2 二：平均正答率 57.4％（三重県 61.5％、全国 64.0％）
- ・問題 3 一：平均正答率 63.6％（三重県 69.2％、全国 71.1％）

書かれている言葉や行動について検討したり、比較したりすることで、目的に合ったものを選びとる経験が必要です。

■全体の傾向から見られる課題

- 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること（Ｃ読むこと）において、特に「目的や必要に応じて」の部分を生徒自身がいつも意識させることが必要です。

中学校国語B 問題2二

宇宙エレベーターの建設方法

◎宇宙エレベーターはどのようにして建設するのか。

- ・ 高度約3万6000kmの宇宙ステーションから、地上へ向けてケーブルを伸ばす。地上とは反対側へもケーブルを伸ばす。
- ・ ケーブルに昇降機を取り付ける。

〈出典〉『科学と未来』平成28年5月号（日本科学未来社）

宇宙エレベーターの昇降機

◎宇宙エレベーターの昇降機にはどのような特徴があるのか。

〈出典〉『科学と未来』平成28年5月号（日本科学未来社）

- 1 地上と宇宙ステーションの間を約24時間で移動する。
- 2 大量の荷物やたくさんの人を運ぶことができる。
- 3 昇降機の壁はロケットの100倍の強度をもっている。
- 4 外から供給される電力でモーターを動かして昇降する。
- 5 地球と同じ速さで動き、どこからでも乗ることができる。

二 高橋さんは、『雑誌の記事』の内容を次のような情報カードにまとめています。
次の1から5までのの中から二つ選びなさい。

平均正答率 57.4%

（三重県 61.5%、全国 64.0%）

正解は【2、4】

似たことが書かれているが、実際に書かれていないものを選択してしまっている誤答がめだちました。

選択肢【1】

移動する時間については書かれていない。

選択肢【3】

昇降機の壁がロケットの100倍の強度をもっていることは書かれていない。

選択肢【5】

宇宙エレベーターの昇降機の速さや乗り場については書かれていない。

<中学校数学A>

○強み

- ・ 問題12（1）：平均正答率58.0%（三重県 49.4%、全国 45.5%）
- ・ 問題7（3）：平均正答率80.1%（三重県 72.4%、全国 72.3%）
最頻値、逆、不等式などの意味を理解し読み取ることができています。

○弱み

- ・ 問題4（1）：平均正答率27.8%（三重県 31.1%、全国 30.9%）
- ・ 問題9（4）：平均正答率23.9%（三重県 37.6%、全国 34.5%）
垂線の作図の方法についての理解に課題が見られます。また、関数の分野は全般的において課題が見られます。

■全体の傾向から見られる課題

- 「数量や図形などについての知識・理解」の観点において基本的な力は付いています。ただ、方程式や関数、図形などの「数学的な技能」の観点に課題が見られます。

＜中学校数学B＞

○強み

- ・問題 2 (1) : 平均正答率 62.5% (三重県 57.1%、全国 59.1%)
条件を基に表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対する y の値を求めることができます。
- ・問題 5 (1) : 平均正答率 50.6% (三重県 45.6%、全国 47.6%)
資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができます。

○弱み

- ・問題 6 (3) : 平均正答率 41.5% (三重県 52.0%、全国 52.9%)
- ・問題 4 (1) : 平均正答率 22.2% (三重県 30.0%、全国 29.4%)
筋道を立てて考え、証明することや計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することに課題が見られます。

■全体の傾向から見られる課題

- 「数学的な見方や考え方」の観点の記述式問題に課題が見られます。

(2) 無解答率の状況

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
鳥羽市	4.62	3.19	1.47	8.48
三重県	5.05	4.38	1.48	7.08
全 国	5.29	4.62	1.79	7.37

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
鳥羽市	1.96	3.17	5.42	14.08
三重県	1.92	4.46	5.62	13.95
全 国	2.05	4.39	6.30	14.69

(3) 各教科の平均正答率

(単年)

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
鳥羽市	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ
三重県	71.7	58.1	78.3	47.1
全 国	72.9	57.8	77.6	47.2

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
鳥羽市	全国と比べて やや低い	全国と比べて やや低い	全国と比べて やや低い	全国と比べて やや低い
三重県	74.4	64.3	62.2	43.2
全 国	75.6	66.5	62.2	44.1

* 平均正答率については、全国、三重県、鳥羽市いずれも公立校のみの結果を集計した値です。

* 平均正答率概要については、全国と鳥羽市の差異が±3.0ポイント以内を「ほぼ同じ」、±3.0～6.0を「やや高い・低い」と表しています。

(経年)

<>内の値は、全国との差を表す

(4) 小学校第6学年時(H25)と中学校第3学年時(H28)の平均正答率

中学3年生において小学校6年生時との平均正答率を比較した結果、国語B、算数・数学A、算数・数学Bにおいて全国との差が縮まっていました。平成25年度から、授業改善を進めるための一方策として、どの教科においても「めあて、振り返り」を重視し、言語活動の充実を図った授業実践を行ってきました。その成果が現れていると考えられます。

2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

（１）児童生徒質問紙調査に関する結果から特に大切にしたいもの

①家庭学習への取組

多くの児童生徒は家庭において計画的に学習を行っています。また、予習を行っている児童生徒が全国を大きく上回っています。

（質問２０）家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校	H27	H28
鳥羽市	58.5	60.5
三重県	60.5	61.7
全 国	62.8	62.2

中学校	H27	H28
鳥羽市	62.8	44.3
三重県	51.0	50.3
全 国	48.8	48.4

（質問２２）家で、学校の授業の予習をしていますか。

小学校	H27	H28
鳥羽市	36.8	50.8
三重県	42.0	44.2
全 国	43.4	43.3

中学校	H27	H28
鳥羽市	32.1	43.6
三重県	37.4	34.8
全 国	35.3	34.2

（質問２３）家で、学校の授業の復習をしていますか。

小学校	H27	H28
鳥羽市	47.6	63.5
三重県	50.1	54.2
全 国	54.5	55.2

中学校	H27	H28
鳥羽市	47.5	47.2
三重県	48.9	48.5
全 国	52.0	51.0

②基本的生活習慣

各家庭でルール作りについて話をすることが大切と考えます。

(質問 1・2・3)

基本的な生活習慣を身につけた子どもたちの割合（朝食・起床就寝）。

小学校	H27	H28
鳥羽市	89.3	87.8
三重県	88.3	89.1
全 国	88.7	89.1

中学校	H27	H28
鳥羽市	87.4	88.3
三重県	86.8	87.4
全 国	86.9	86.9

③自尊感情

小学校においてよいところがあると考えている児童が多く見られます。子どもたちが失敗を恐れずに挑戦できるように、結果を追うだけでなくその過程をみつめるようにしていきたいと考えます。

(質問 6) 自分にはよいところがあると思う。

小学校	H27	H28
鳥羽市	71.5	78.4
三重県	75.1	75.5
全 国	76.4	76.3

中学校	H27	H28
鳥羽市	72.6	71.6
三重県	69.4	71.3
全 国	68.1	69.3

(質問 5・9) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する・将来の夢や目標を持っている。

小学校	H27	H28
鳥羽市	80.4	76.7
三重県	81.0	80.7
全 国	81.5	80.7

中学校	H27	H28
鳥羽市	73.5	73.1
三重県	70.7	70.9
全 国	70.3	70.4

④めあてと振り返りについて

生徒と学校との意識の差が縮まってきています。これらは小・中学校全体での取組の積み重ねにより子どもたちにとっても日常化してきたためと考えられます。

(質問 5 3) 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

小学校	H27	H28
鳥羽市児童	90.4	90.3
鳥羽市学校	100	100
全国児童	86.3	87.6

中学校	H27	H28
鳥羽市生徒	86.1	96.0
鳥羽市学校	100	100
全国生徒	79.7	84.9

(質問 5 4) 学習活動を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

小学校	H27	H28
鳥羽市児童	76.9	83.5
鳥羽市学校	88.8	100
全国児童	75.3	76.1

中学校	H27	H28
鳥羽市生徒	76.6	85.8
鳥羽市学校	80.0	100
全国生徒	56.3	63.1

(2) 鳥羽市として大切にしたい10個の項目の経年変化

(経年変化) 小学校

	質問項目		H26	H26→ H27	H27	H27→ H28	H28	H26→H28
①	平日のテレビ等の視聴 (3時間以上)	本市	42.2	↘	46.3	↗	43.2	— C
		全国	38.0		36.1		32.8	
		全国との差	4.2		10.2		10.4	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3時間以上)	本市	18.4	↗	15.7	↘	20.9	— C
		全国	18.0		17		16.0	
		全国との差	0.4		-1.3		4.9	
③	平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3時間以上)	本市	4.9	↗	4.7	↘	5.2	— C
		全国	6.0		5.7		5.8	
		全国との差	-1.1		-1.0		-0.6	

④	平日の学習時間 (1 時間以上)	本市	52.9	↘	45.6	↗	61.2	+
		全国	62.0		62.7		62.5	
		全国との差	-9.1	↘	-17.1	↗	-1.3	
⑤	休みの日の学習時間 (1 時間以上)	本市	46.5	↘	45.5	↗	46.2	-
		全国	55.9		56.7		57	
		全国との差	-9.4	↘	-11.2	↗	-10.8	
⑥	平日の読書時間 (30 分以上)	本市	30.9	↗	36	↗	37.3	+
		全国	38.2		37.7		36.5	
		全国との差	-7.3	↗	-1.1	↗	0.8	
⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う	本市	95.7	↗	98	↘	97	+
		全国	96.4		96.2		96.6	
		全国との差	-0.7	↗	1.8	↘	0.4	
⑧	授業では学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っている	本市	80.5	↘	65.3	↗	86.6	+
		全国	84.9		66.9		83.4	
		全国との差	4.4	↘	-1.6	↗	3.2	
⑨	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする。	本市	64.3	↗	64.7	↗	70.9	+
		全国	61.4		65.2		68.3	
		全国との差	2.9	↘	-0.5	↗	2.6	
⑩	算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている	本市	84.8	↘	78.3	↗	85.1	+
		全国	83.4		83.8		84.8	
		全国との差	1.4	↘	-5.5	↗	0.3	

矢印は、「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し、↗は「改善・上昇」、↘は「変動なし」、↙は「下降」を表す。

A・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、平成 26 年度と平成 28 年度を比較しています。Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。

表中の＋・－は、「本市の割合」の変位を表し、平成 26 年度と平成 28 年度を比較しています。＋は「改善・上昇」、－は「下降」を表す。

(経年変化) 中学校

	質問項目		H26	H26→ H27	H27	H27→ H28	H28	H26→H28
①	平日のテレビ等の視聴 (3 時間以上)	本市	35.5	↘	32.1	↘	28.4	+
		全国	31.5		30.5		24.1	
		全国との差	4.0	↗	1.6	↘	4.3	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3 時間以上)	本市	27.6	↘	24.8	↘	22.7	+
		全国	20.3		20.5		18.9	
		全国との差	7.3	↗	4.3	↗	3.8	
③	平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3 時間以上)	本市	23.9	↗	21.2	↘	22.8	+
		全国	19.8		18.2		16.6	
		全国との差	4.1	↗	3.0	↘	6.2	

④	平日の学習時間 (2 時間以上)	本市	32.8	↘	30.6	↘	26.7	-
		全国	35.1		35.7		34.2	
		全国との差	-2.3	↗	-5.1	↘	-7.5	
⑤	休みの日の学習時間 (2 時間以上)	本市	30.0	↗	43.0	↘	38.1	+
		全国	40.3		43.0		40.1	
		全国との差	-10.3	↗	0	↘	-2.0	
⑥	平日の読書時間 (30 分以上)	本市	37.3	↘	30.7	↘	27.3	A -
		全国	31.4		30.6		28.2	
		全国との差	-5.9	↗	0.1	↘	-0.9	
⑦	いじめはどんな理由があってもい けないと思う	本市	91.6	↗	97.1	↘	95.4	+
		全国	93.4		93.7		93.6	
		全国との差	-1.8	↗	3.4	↘	1.8	
⑧	授業では生徒の間で話し合う活動 をよく行っている	本市	76.1	↘	65.7	↗	84	+
		全国	75.3		62.9		77.8	
		全国との差	-0.8	↘	-2.8	↗	6.2	
⑨	国語の授業で目的に応じて資料を 読み、自分の考えを話したり、書 いたりする。	本市	53.9	↗	54.7	↗	57.9	+
		全国	56.1		59.2		62.2	
		全国との差	-2.2	↗	4.5	↘	4.3	
⑩	数学の授業で問題の解き方や考え 方がわかるようにノートに書いて いる	本市	80	↗	80.3	↗	84.1	+
		全国	80		80.6		81.1	
		全国との差	0	↘	-0.3	↗	3.0	

矢印は、「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し、↗は「改善・上昇」、↘は「変動なし」、↘は「下降」を表す。

A・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、平成 26 年度と平成 28 年度を比較しています。
Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。

表中の+・-は、「本市の割合」の変位を表し、平成 26 年度と平成 28 年度を比較しています
+は「改善・上昇」、-は「下降」を表す。

(3) 学校質問紙調査に関する結果

文部科学省より提供される結果データ「調査結果チャート」を使用

※▲は 27 年度の調査結果

※点線の丸は全国の基準

[参考]平成28年度調査結果に、昨年度実施した調査結果を重ねたグラフ
※黒三角・黒破線は、昨年度の貴教委の調査結果を示す。
(昨年度、該当する領域がなかった箇所については、黒三角・黒破線は記載していない。)

学校質問紙 (全国基準)



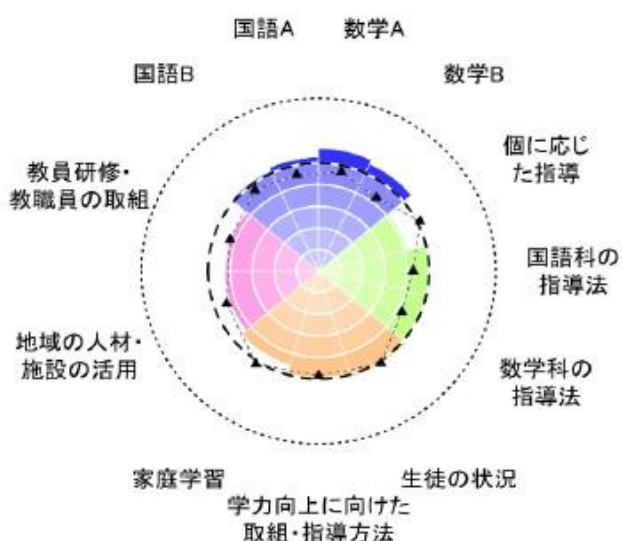
[参考]平成28年度調査結果に、昨年度実施した調査結果を重ねたグラフ
※黒三角・黒破線は、昨年度の貴教委の調査結果を示す。
(昨年度、該当する領域がなかった箇所については、黒三角・黒破線は記載していない。)

児童質問紙 (全国基準)



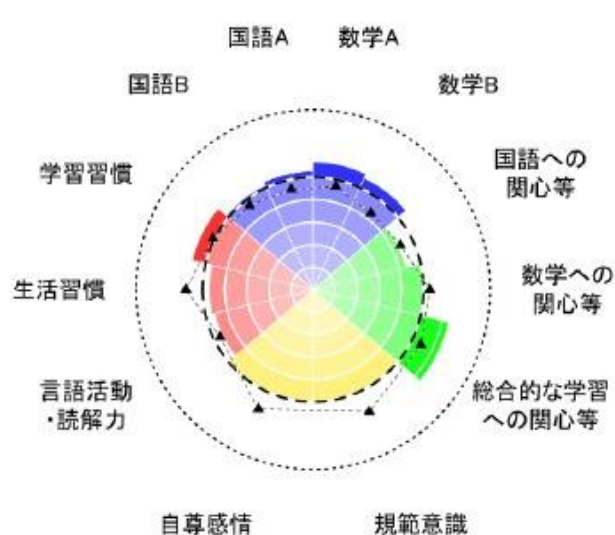
[参考]平成28年度結果に、昨年度実施した調査結果を重ねたグラフ
※黒三角・黒破線は昨年度の貴教委の調査結果を示す。
(昨年度、該当する領域がなかった箇所については、黒三角・黒破線は記載していない。)

学校質問紙(全国基準)



[参考]平成28年度結果に、昨年度実施した調査結果を重ねたグラフ
※黒三角・黒破線は昨年度の貴教委の調査結果を示す。
(昨年度、該当する領域がなかった箇所については、黒三角・黒破線は記載していない。)

生徒質問紙(全国基準)



3 鳥羽市教育委員会による学校支援とその成果等の状況

- 平成 26 年度より授業時における「めあて・振り返り」への取組を進めてきました。本年度学校質問紙において「めあて・振り返り」はすべての学校において行っている（100%）の回答を得ることができています。また児童・生徒の意識も高まり、自覚を持って取り組んでいることがわかりました。今後、「振り返り」の充実を図るために、効果的な振り返りを行っている学校の実践を広げ、先進的な取組について情報発信を行っていきます。
- 基礎学力向上研究委員会において校内研修会の充実をめざし、効果的な検討会や授業後の反省会を行うことで指導者の授業力向上に取り組んできました。各校の意欲的な取組により、児童生徒が主体的に学ぶ姿が見られる授業が増加しています。この成果が児童質問紙において国語・算数における関心の高まりに見られました。

4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

- 新しい学習指導要領において育成すべき 3 つの力（「何を知っているか、何ができるか」、「知っていること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」）があげられており、この充実がこれからの課題となります。そのために学習指導要領の内容を具現化した「全国学力・学習状況調査」「みえスタディチェック」を有効的に活用することが手立ての一つであると考えています。これらの調査結果から児童生徒が持つ課題や誤答の傾向をつかむことで、普段の授業に生かしていくことを大切にしていきたいと考えています。また三重県教育委員会が作成した「ワークシート」を家庭学習や、朝の学習の時間、長期休業中の宿題等における活用を推進していきます。
- 様々な資料から必要な情報を選択し、相手を意識して表現する能力を育てていくことも欠かせません。そのため、教科書以外の資料を活用していくことで、複数の資料から情報を選び取る経験を普段から行っていく必要があります。日常から児童生徒自身にねらいを持たせ、どのような情報が必要なのかを吟味させていく学習場面を設定していきたいと考えています。
- 全体を通じて、以下の点を押さえた指導の充実を図っていきます。
 - ・児童生徒が資料を使って発表できる指導
 - ・発展的な学習【国語科、算数・数学科】
 - ・目的や相手に応じて話したり、聞いたりする授業【国語科】
 - ・実生活における事象との関連を図った授業【算数・数学科】
 - ・地域の人材を外部講師として招く授業
 - ・自分で調べたこと、考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導
 - ・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
 - ・他の考え方を受け入れ、判断する力を養う指導（間違いに対して、「相手の考え方を受け止め、何を加えれば「正答」になり得るか考えさせる。」）
これらを児童生徒の状況に応じて選択し、市内各校において組織的・継続的な取組を推進していきます。